

2000年・名古屋の熱い夏

容器包装リサイクル 中間総括

平成12年10月

名古屋市

循環型社会 への 産みの苦しみ

名古屋市では、平成 12 年 8 月 7 日、紙製およびプラスチック製の容器・包装の資源収集を開始しました。「容器包装リサイクル法」の全面施行に伴う取り組みです。

名古屋市民は、戸惑いと不満を抱えながらも前向きに取り組み、協力を寄せて下さいました。新しい資源分別が曲がりなりにもスタートし、端緒的な成果をあげることができたのも、こうした市民の皆様のご協力、そして保健委員をはじめとした地域役員など多くの方々の献身的なご尽力のお陰にほかなりません。紙上より、厚く御礼を申し上げます。

この間、「協力したいけど良く分からない!」というお尋ね、「趣旨はともかく、やり方をもっと工夫しろ!」、「こんな消費者いじめの法律は、誰がつくったんだ!」という熱意ゆえのやるせない怒り、「分別してみても改めて無駄な容器・包装の多さに唖然とした。生産段階で改善してもらわないと、消費者にはごみを減らせない!」という切実な訴え、…、実に数多くの声をいただきました。

専用のホットラインへの問い合わせが 3 ヶ月余で約 2 万件。そのほかにも、関係部署の電話は 1 ヶ月ほどの間ふさがりっ放しになり、ファックス、インターネット、手紙等を合わせると、問い合わせやご意見はその数倍に上りました。

2300 回の地域説明会、2 度にわたる説明資料の全戸配布、説明ビデオの放映や貸出し、スーパー・コンビニ・集合住宅管理会社・大学等のご協力による周知、新聞広告やテレビ・ラジオ CM など、かつてない規模と態勢で事前説明に臨みました。しかし結果として、上記のように多くの市民の戸惑いを生むこととなりました。

これらの中には、我々の説明や周知の不充分さによるもの、市町村の工夫によって改善できるものも相当数あります。しかし基本的には、「容器包装リサイクル法」の枠組みに起因するものが多く、しかも、当初の混乱が去り分別ルールを理解が浸透するにつれて、法の枠組みに起因する質問や意見が増加する傾向にあります。

「容器包装リサイクル法」は、画期的な要素を含んでいます。しかし端的に言って、「拡大生産者責任」が不徹底であるがゆえに市民の痛みが増幅され、同時に、成果を部分的なものにとどめているのです。

そこで、ようやく道筋が見え始めてきた資源リサイクルの仕組みをより良いものに改善して行くために、この間の取り組みの「中間的な総括」を行いました。

名古屋市民の熱い体験が糧となって現行制度の抜本的な改善が促進されるとともに、今後取り組まれる市町村にとって他山の石となれば幸いです。

平成 12 年 10 月

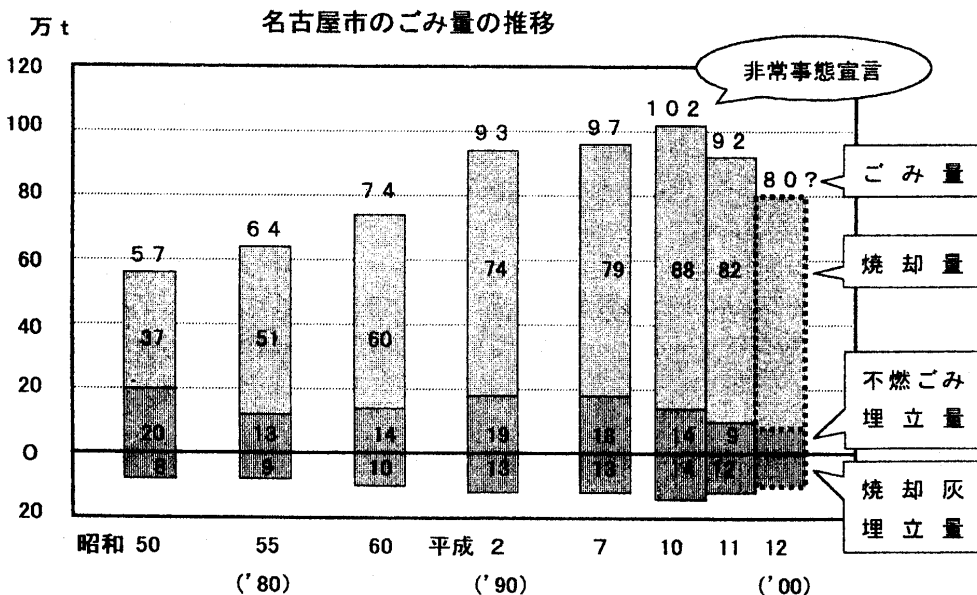
名古屋市長 松原 武久

1 前 史 — 平成 11 年度、名古屋市民は 10 万 t のごみを減らした

平成 11 年 2 月、名古屋市は、次期埋立処分場として計画していた名古屋港西 1 区埋立事業を断念しました。現在使用している愛岐処分場の埋立完了が目前に迫る中で、「快適で清潔な市民生活の確保と自然環境の保全、これらの両立をいかにして図るべきか、熟慮に熟慮を重ねた末の苦渋の決断」でした。

これに伴い、「ごみ減量先進都市へ、ともに挑戦しましょう」という緊急の訴え(ごみ非常事態宣言)を発表し、平成 12 年度の年間ごみ量を 80 万 t に減らすことを、市民に呼びかけました。

その結果、名古屋のごみ量は 1 年間で 102 万 t (平成 10 年度) から 92 万 t (平成 11 年度) に減少し、埋立量も 28 万 t から 22 万 t に減少しました。ごみ量は 10 年前(平成元年)、埋立量は 15 年前(昭和 59 年度)の水準に減少したことになります。



ごみ量減少の内訳

	平成 10 年度	平成 11 年度	差
家庭系ごみ(市収集)①	73.3 万 t	67.0 万 t	△ 6.3
事業系ごみ(搬入ごみ)②	30.0	25.7	△ 4.3
中間処理での資源化量③	1.0	1.1	+ 0.1
資源収集	1.8	2.8	+ 1.0
ごみ量の合計 ①+②-③	102.2	91.7	△ 10.6

資源収集の拡大 1 万 t
 集団回収活性化 2 万 t
 粗大ごみの減少 1 万 t
 チャレンジ 100 2 万 t

事業系ごみ減少 4 万 t
 空きびん・空き缶・資源化
 可能な紙の焼却工場・埋立
 処分場への搬入禁止など

2 新たな挑戦 —「容器・包装」の資源化

平成12年4月、「容器包装リサイクル法」が全面施行となり、紙製およびプラスチック製の容器・包装の資源化に道が開かれました。この法律は、容器・包装を製造・使用する事業者にリサイクル義務を負わせた点で画期的ではありますが、最も手間とコストのかかる収集・選別作業を市町村の役割とするなど「拡大生産者責任」の考え方が不徹底で、結果として消費者や市町村にとっての負担が重いという問題点をはらんでいます。

しかし私どもは、あえて火中の栗を拾うことにしました。問題点にもかかわらず画期的な要素を含んでおり、また問題点が多いからこそ実践を通して具体的に改善を働きかけて行く必要があると考えたからです。そして、開始日の平成12年8月7日に向けて、下記のような準備を行いました。

- ・事前告知等 : 「広報なごや」3月号、4月号、6月号、8月号
- ・地域説明会 : 6～7月（2300余回、21万余名＝世帯数の24%の参加）
- ・説明資料 : ① 第1弾（A4版12頁、6月）
 上記説明会や環境事業所による戸別配布など（33万部）、スーパー、コンビニ、集合住宅管理会社、大学等を通じての配布（21万部）
- ② 第2弾（A3版4頁、7月）
 「広報なごや」特集号として全戸配布
- ③ 第3弾（A4版32頁、8月）
 「広報なごや」特集号として全戸配布（保存版）
- ④ 外国語版（A4版4頁） 5ヶ国語、計2万余部
- ・説明ビデオ : 地域説明会、区役所、スーパー、テレビ番組にて放映
- ・媒体広告等 : 新聞広告（7紙）、テレビCM（5局）、ラジオCM（4局）、テレビ市政番組（3回）、ラジオ市政番組（3回）、映画館での名古屋市ニュース（2回）、大型映像装置（2ヶ所）、地下鉄・市バスへのポスター掲出、など

名古屋市のごみ・資源収集の方式

		従 来	平成12年8月7日～
可燃物	新聞・雑誌・段ボール	集団資源回収、リサイクルステーション、古紙リサイクルセンター	
	紙 パ ッ ク	拠点回収（300ヶ所）	
	紙製の容器・包装	各戸収集（毎週2回）	* ステーション収集（2週間に1回）
	可燃ごみ		
不燃物	ペットボトル	拠点回収（1300ヶ所）	* ステーション収集（2週間に1回）
	空きびん	ステーション収集（毎週1回）	
	空き缶	ステーション収集（毎週1回）	* ステーション収集（毎週1回）
	スプレー缶・カセットボンベ		* ステーション収集（2週間に1回）
	プラスチック製の容器・包装		
	不燃ごみ	ステーション収集（毎週1回）	
粗大ごみ	ボタン電池	拠点回収（200ヶ所）	
		各戸収集（申込制、月1回）	